

## あとがき

本書の目的は、第二次大戦後から最近年までのシンガポール現代史の流れを通史として、一般向けに描き出すことにあった。わが国にはこうした試みがこれまでなされていなかったことに着目したものである。私は、この目的に即し「要を尽く簡に徹する」つもりであったが、全体の流れを通観し、簡略化する力量がなく、このように無様に厚いものになってしまった。

私が、この通史で描き出したかった点は、シンガポールが地政学的に置かれた地位の過去・現在・未来である。マレーシア・インドネシアというマレー人が多数を占める国家に挟まれた華人支配の小国が成立し、生存し続ける様態・可能性に関心があったのである。

本書は、平成二年度（一九九〇年）に作られた「アジア現代史の諸問題」研究会の成果の一つである。原稿完成までにたいへん長い時間が経ってしまい、研究所の諸方面に多大のご迷惑をお掛けしたことを深くお詫びしたい。ただ言いわけがましいが、筆者は同研究会成立直後に動向分析部での担当国がシンガポールからインドネシアへ変わってしまい、爾来研究所に在籍中はシンガポールへ手が回らなくなってしまうのであった。もつともそのおかげで、シンガポールを、内側から見るもののほか、マレーシア、インドネシアというマレー世界の視角から眺める習慣を

身につけることができたような気がする（本書にその結果は反映されなかったが）。

アジア経済研究所動向分析部のかつての僚友、とくに浅野幸穂さん、浜勝彦さん、木村陸男さんと吉田良明さんには、やたらに長い原稿を辛抱強く読んでもらい、数多くの詳細な修正・改善をほどこしていただいた。また長年にわたり『アジア動向年報』の編集・出版で仕事仲間であったアジア経済出版会の鳥谷尾克男さんには、今回も面倒を見ていただいた。改めて感謝を申し上げます。

一九九一年八月

筆者